

第三学期始業式校長式辞 より

新年明けまして、おめでとうございます。

よい冬休みを過ごすことができましたか。三学期もみんなで力を合わせて、成長できる楽しい学校を創りましょう。

さて、今年度もあと3カ月弱になってしまいました。ここまですり返してみると、今年度は、悲しみも、喜びも、感動もみんなで分かち合う年であったと思います。

大きな悲しみは、5月に佐藤悠吏さんが交通事故で亡くなったこととあります。悠吏さんを全校生で見送り、悲しみを分かち合いました。そして、悲しみを乗り越えながら絆を強くした1年でもありました。みなさんは、たくましく、そして、しなやかになったと思います。

感動は、FF体育祭や合唱コンクールです。生徒諸君の団結した姿は見事であり、感動を分かち合う姿がとても素敵でした。

喜びは、駅伝チームの活躍です。全国大会でも14位と大健闘でした。女子駅伝チームの県大会5位入賞も見事でありました。男子駅伝チームは、県大会で優勝したあとも、東北大会優勝、全国大会8位入賞という高い目標を掲げ努力を続けました。高い志を持って挑戦する姿が素敵でした。

象徴的なものを話しましたが、みなさんの毎日の授業の一生懸命な姿も私にとっては、何よりもうれしいことです。駅伝チームだけでなく、多くの生徒が高い志を持って、授業と向き合っている姿でもあります。私はみなさんの活躍や分かち合う姿を見ていると、多目的教室前の2階の階段脇に掲額してある「連峰のうた」を思い出すのです。

資料を見てください。旧山形一中2代校長の原田國夫先生が昭和30年に「連峰の精神」を説かれています。最初に書かれているのは、なぜ、私達の生徒会誌は「連峰」と名づけられているのか、生徒と教師で作った校歌の中に「奥羽連峰ゆるぎなく」と歌った本校の先輩たちの願いはどんなものであったのかについて考えたことが記されています。

そして、日本を南北に貫いて並び立つ奥羽の山々が、日本の未来を背負う若い諸君のシンボルのように思われたいのである。個性豊かで自主性に満ちた人間、重厚で誠実、固い団結と友情に結ばれた人間、高い理想を求めて逞しく前進する人間、そんな人間に育ってくれることを私は心から諸君に期待するのである。奥羽山脈に源を発する馬見ヶ崎扇状地、緑が丘に集い学ぶ一中生よ、連峰の如くに伸びようではないか。と「連峰の精神」を説かれたのである。

今の私も全く同じように考えているので、みなさんにお話をしています。そして、その後「連峰のうた」を書いています。山には、高い山も低い山もある。高い山だけがよいものではありませんね。低い山でも、美しい花々があり、美しい紅葉を見せてくれる山もあります。奥羽山脈の山々はそれぞれ個性があるけど、麓はみんな繋がっているということを頭に入れて、「連峰のうた」を聴いてください。読みます。

日本列島を南北に貫いて並び立つ山 山 奥羽連峰
白雲をいただく峰 又 峰が 紺青の冬に美しくかがやく
はげしくそそり立つ 鋭角的な峰のとなりに 柔らかな稜線をえがく山が連なる
どの峰も どの山も みんな それぞれの個性に生きて 巖として 自己の存在を主張する
しかも 山々は決して孤立してはいない 山脈を形成して 固い友情の誠に生きる
山々の美しさは虚飾のそれではない 正直な飾らないもののみのもつ 限りない美しさだ
そして 山々は理想主義者でもある
見よ あの青く澄んだ空に向かってそそり立つ 理想追求の不屈な情熱を
諸君よ 山に学ぼうではないか 私たちの心にかがやく連峰をつくらうでないか

そして、昭和54年度 新しい一中ができ、生徒会誌は引き続き「連峰」と名づけられました。その「連峰 創刊号」のとびらに連峰の説明があります。読みます。

「連峰について」

連峰。あなたは、このことばを聞いて何を想像しますか。

おそらく雄大にそびえ立つ蔵王連峰や朝日連峰を想像するでしょう。

山はそれぞれの個性をもっています。一つ一つが天に向かってそびえ立っています。

それらの山は決して孤立しているわけではありません。

がっちり肩を組み、ふもとは一つになって、連峰を形づくっているのです。

私たち一中生は、この連峰のように一人一人が個性をもち、自己を高め、

そして、決して孤立せず、互いを高め合いながら一つのまとまり、

つまり一中をつくり上げるためにみんなでがんばりましょう。

このように、「連峰の精神」が示されたのが約60年前、新一中の生徒会誌「連峰」が名づけられた理由を示したのが約40年前ですが、今のみなさんに、一中に必要な考え方であると思います。さらに、情報化やグローバル化が進む社会だからこそ、この「連峰の精神」を大切にしてほしいと思っています。一人一人が個性をもち、自己を高め、孤立することなく、互いを高め合う世の中にしてほしいのです。

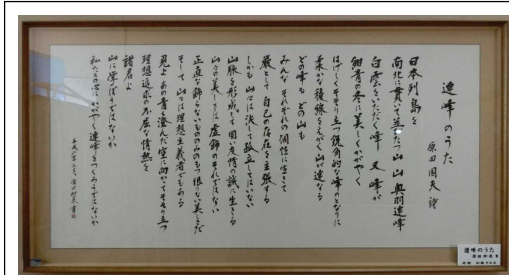
今年度、生徒のみなさんだけでなく、教職員、保護者、地域の方々も一緒に悲しみや喜び、感動を分かち合ってくださいました。そして、温かく見守っていただきました。今回、「連峰の精神」を読み返してみると、これまでの「分かち合うこと」と「高い志を持って挑戦すること」と似ているように感じます。仲間の成功を喜び、仲間と感動や悲しみを共有し、さらに前進していこうとする姿は「連峰の精神」そのものです。今後も「分かち合うこと」を大切にしながら、本校のスローガンである「限りなき前進めざせ一中生」を合い言葉に、楽しい一中をみんなで創ってほしいのです。この「連峰の精神」は、一中生のプライドであり、誇りであるように思います。これからも「分かち合うこと」と「高い志を持って挑戦すること」を大事にすることが、一中を誇りに思うことと繋がると思います。どうか、そのために、さらに主体的に活動してほしいのです。

具体的に、みなさんをお願いしたいことを2つ話をします。1つ目は「さわやかなあいさつと返事」です。挨拶は、相手より先にできてこそ本物といわれています。登下校時に、近所の人などに先に挨拶しましょう。もちろん昇降口でも、校内でも、先生方より先に挨拶できるとよいですね。職員室の出入りの時、給食室への出入りの時も「さわやかなあいさつ」をお願いします。自分から挨拶するという意思を持ってください。挨拶や返事は、分かち合うための条件の一つだと思っています。

2つ目は、授業でもっとわかりたい、できるようになりたいという気持ちを出して勉強してほしいのです。させられているという気持ちがあるうちは、伸びは大きくありません。自分から勉強するという気持ちを様々な方法で表してほしいのです。そうすることで、高い志を持って挑戦する姿になっていきます。

まとめの3学期、皆さんの主体的な活動を期待しています。

(平成29年 1月 6日 校長 吉田勝彦)



『連峰のうた』 原田柳泉 書／ 寄贈 加藤きみ糸

多目的教室前の階段の壁に、原田國夫先生が書かれた『連峰のうた』が掲示されています。ここに書かれてある精神は一中生のプライドであり、誇りでもあるものです。生徒の皆さんも、一度、意識して見てみましょう。